

みぶ町政だより

6月号

昭和52年 6月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行） 昭和34年9月30日第三種郵便物認可 一部9円



▲この写真をさしあげます
希望される方は、企画課（☎1234内線50）へ
ご連絡ください。

町内こぞって 環境整備

今月の人口

6月1日現在	対前月比
総人口 32,239	169人増
男 15,936	87人増
女 16,303	82人増
世帯数 8,342	79世帯増

町の保健委員会から、環境整備モデル地区に指定された下表町（小田垣彦四郎会長）では、毎月予定をたて、側溝清掃や県道沿いの花壇の手入れを定期的に行なっています。

6月12日には、老人クラブの人たちが、県道小山・今市線の一里塚から御成橋までの道路沿いの花壇の除草を行ないました。

老人クラブが除草作業

三好町老人クラブ（大橋春之進会長）では、五月二十一日朝から老人憩の家「東雲荘」周辺の除草作業を行いました。



善意銀行

○金二万円
栃木県電気工事業工業組合
栃木支部長 早乙女 多吉殿
重度心身障害児のためにと予託
されました。

体育協会が県教育長から表彰

昭和五十二年度教育関係功労者
昭らびに優良学校、優良団体等考
彰式が、五月二十日県庁で盛大に
行なわれました。

この席上で、壬生町体育協会が
社会教育部門、特に町体育を通
じて地域社会の進展に寄与した功
績が認められ、体育協会では県下
でただ一つの団体として、優良団
体部門で県教育長から表彰されま
した。



退職金共済制度のあらまし

中小企業退職金共済制度

金の支払の確保と、同する法律で退職金の保償措置の規定が施行されました。この法律では、退職金制度を設けている事業主は、退職金の支払いにあてる金額のうち一定額を銀行、その他金融機関の保証に委ね、確実に支払う方法で、その保証に努めなければならない、こととされています。

しかし、中小企業退職金共済制度の加入者等法令に基づく社外積立退職手当制度の加入者については、その適用が除外されています。国の退職金制度である中退金共

有利。この制度の掛金は、全額課税の扱いとなり、納められた掛金は運用利息を含めて、その金庫にあらわれます。そのうち、退職金には、国から一定の補助金がつけられます。

また、この制度は、法律で定められ、国の制度なので、安全に管理され、

た。退職金の確実な退職金は従業員に支払われるのみにならず、手輕に私にわたるだけ、あとは経済的困難に私に支拂われる。事業団が一切の面倒をみてくれます。掛金は月八圓、九圓、十圓、十圓、十四圓、十七圓、十八圓、十九圓、二十圓まで九千八圓あり、千円まで九千八圓あり、千円以上の退職金受取りが出来ます。

加入できる企業
(其決約者)

この制度に加入出来るのは、常雇用従業員が八人以上、小売業、小売業は二人、小売業、サービス業等は五人、以上の中小企業です。資本金には関係ありません。

くすり箱
夜尿

夜尿

夜尿と云うのは、小児の寝小便のことであります。成人、それも中年以上の年齢の人々が夜中にお水以上起きることを指しています。夜中にお水に行くのは全部病気があるためと云うわけではありませんが、実はしばしば病気の症状であり病气によつては夜尿が唯一の初期症

ります。

昔は、たいていの家庭にくすり箱が常備されていて、富山のすり売りのような人が来て常備薬を整備していったようです。最近はいわば救急箱のようなものの以外に、このようなくすり箱を常備している家庭は少なくなりました。

實際、病氣は発病してからの手当てより、予防の方がはるかに効果的で、ほとんど症状の出ない早期に病氣が発見されればひどくなくてからよりも早く治

鳥居家中興譜について

それは家康を追求するよりも京都に上ることが大切であり、行く手には、家康の長男信康の守る岡崎城があり、また、その先には、信長が居るのでその方が先というので家康にこたわらなかつたのである。

もし、武田方がどこまでも家康の逃げ延びた浜松城を攻めたら家康の命も危なかつたであらう。本当に家康は、運が強く九死に一生を得たのである。

その後、信玄は、予定とおり岡崎に向ひ、その途中にある三河の野田城を攻めたのであるが、城主菅沼新八郎正定は、家康の命令を守り、城に來た松平与一郎忠正や助けの兵と共に、よく城を守り、なかなか落すことが出来なかつた。

翌元龜四年二月十六日になつてやつと城を開け渡す約束ができた時、突然信玄は、重い病にかかり間もなく死んでしまつた。

武田方は、信玄の死を隠して甲斐に引きあげた。」

家康は、鳥居四郎左衛門（忠広といひ元忠の弟）にあちこち廻つ

居元忠が対戦したが、元忠は、士卒を進めて敵の堅陣を破った。兵衛尉は、負けて兵を全部引き上げた。

元忠は、なお、しきりに攻撃して信玄の本陣近く敵を追いくずした。

「筆者 藍田」

